

玉磨かざれば光なし

教育長 堀部 義郎

標題のようなことわざがあります。「玉（宝石）が原石のまま磨かれなければ、美しい光を放たないのと同じように、どんな素晴らしい素質があっても、努力して、自分を磨かなければ立派な人間になれない」といういましめです。

ところで、原石の代表として、よくとりあげられるものとして、ダイヤモンドがあります。その原石は、黒くて透明度がなく「これが本当にダイヤモンドなのか。」と思うようなものであって、路傍に落ちていても絶対にわからないといえます。けれども、研磨などいろいろな方法で加工するうちに、美しい輝きを放つようになるのです。

さて、学校で考えてみましょう。子どもたち一人ひとりには個性という良さを持っています。そして、子どもたちは「玉」のように、どの子も磨けば磨くほど、光り輝きます。だけれども、それぞれに、素晴らしい力



〈挑戦すること〉

を発揮する可能性（潜在能力）を持っているのです。それは、芸術の才能かも知れませんし、知的な面や豊かな心かも知れません。さらには、運動の力かも知れません。

しかし、潜在能力は、そのままでは力となって表れてはきません。そのまま放置しては可能性をつぶしてしまうことになるのです。

今、子どもは自由に伸び伸びと育てれば、自然によくなっていくという考え方もあります。これでは、子どもたちの持っている可能性をつぶしてしまうことにもなるかも知れません。

特に、乳幼児期から義務教育の時期は、最も伸びる時期と言われる。「鉄は熱いうちに打て！」といいますが、最も鉄の熱い状態がこの時期です。だから、こういう時期に磨かないのはもったいないと思います。

「磨く」とは「鍛える」ことなのです。

これから子どもたちが生きていく世の中は、決し

て平坦な道ばかりではありません。さまざまな困難な道乗り越える強く、折れない心を持って歩んでいかなければなりません。

そのためには、自分自身としっかり向き合い、子どもたち一人ひとりに「自分の自己実現」「人のために尽くす生き方」の志・夢を持たせることが必要です。なぜなら、夢や志が自分を磨き鍛えようとする原動力となるからです。

そこで、学校や家庭では、日頃から子どもたちに「あなたの良さは何か。あなたは何になりたいのか。そのためにどんな勉強が必要なのか。」と自分を見つめる場や機会を大切にしたいと考えます。そして、自分のことだけでなく、人のため社会のために役に立つことの大切さを自覚させたいものです。



〈継続すること〉

そして、その志・夢の実現につながる身近な目標を持たせ、努力する営みをさせたいと思います。「早寝早起きをする」「忘れ物をしない」「お手伝いをする」「ボランティア活動をする」など、日常生活に関する具体的な目標を持った生活をさせるのです。

しかし、目標に向かって努力することは、楽しいことばかりではありません。苦しくつらいこともあります。けれども、努力する中で「できた」「やり遂げた」といった経験や事実を積み重ねたいと思います。苦しいことを乗り越えた経験や事実が、これから生きていく自信や誇りとなるのです。

そして、周りの大人は、具体的な目標の内容をアドバイスしたり、くじけそうになった時、背中をおしてあげたりすることが大切です。また、努力していることや達成できたことには「よく頑張ったね。」の声かけなど、自分を磨こうと努力した事実や成果を認めてあげることが大切なのです。

子どもたちは、磨けば磨くほど光り輝く存在です。学校とご家庭、地域が手に手をとって、大いに鍛えていこうではありませんか。